

Title	Dietary intake of energy and nutrients from breakfast and risk of stroke in the Japanese population: the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS)
Author(s)	岡田, 知佳
Citation	
Issue Date	
Text Version	none
URL	http://hdl.handle.net/11094/70690
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

論文審査の結果の要旨及び担当者

(申請者氏名) 岡田 知佳	
論文審査担当者	(職) 氏 名
主 査	大阪大学教授 磯 博 康
副 査	大阪大学教授 榎江 友子
副 査	大阪大学教授 下村 伊一郎
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>朝食摂取の頻度は、循環器疾患発症のリスクに対して負の関連が報告されているが、朝食のエネルギーと栄養素摂取の影響は明らかにされていない。今回我々は、朝食のエネルギーと主栄養素の摂取と脳卒中の発症との関連を前向きコホート研究により検討した。</p> <p>ベースライン時（1981-1990年）に脳卒中および心疾患の既往がなく、24時間思い出し調査法を用いた食事調査に参加した40-59歳の地域住民3,248人（男性1,662人、女性1,586人）を対象として、朝食からのエネルギーおよび栄養素摂取量（たんぱく質、脂質、脂肪酸および炭水化物）摂取量をそれぞれ四分位に分類し、脳卒中発症との関連を分析した。25年間の追跡期間の結果、朝食からの高エネルギー摂取、特に飽和脂肪酸と一価不飽和脂肪酸の摂取は、男性において脳出血の発症リスクを抑制する可能性があることが示された。</p> <p>以上により、本論文は学位に値するものと認める。</p>	

論文内容の要旨
Synopsis of Thesis

氏名 Name	岡田 知佳
論文題名 Title	Dietary intake of energy and nutrients from breakfast and risk of stroke in the Japanese population: the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS) (日本人における朝食からのエネルギーと栄養素の食事摂取と脳卒中のリスク : CIRCS研究)
論文内容の要旨	
〔目的(Purpose)〕 朝食摂取の頻度は、循環器疾患発症のリスクに対して負の関連が報告されているが、朝食のエネルギーと栄養素摂取の影響は明らかにされていない。今回我々は、朝食のエネルギーと主栄養素の摂取と脳卒中の発症との関連を前向きコホート研究により検討した。	
〔方法(Methods)〕 本研究の対象者は、ベースライン時(1981-1990年)に脳卒中および心疾患の既往がなく、24時間思い出し調査法を用いた食事調査に参加した40-59歳の地域住民3,248人(男性1,662人、女性1,586人)とした。食事摂取量は、朝食からのエネルギーおよび栄養素摂取量(たんぱく質、脂質、脂肪酸および炭水化物)を算出し、それぞれ四分位に分類した。Cox比例ハザードモデルを用いて、各摂取量の最も少ない群を基準として、脳卒中発症のハザード比を算出した。	
〔成績(Results)〕 追跡期間は男女計25年(中央値)であり、追跡期間中に230人(男性147人、女性83人)が脳卒中を発症した。年齢、地域、朝食以外からのエネルギー摂取量、喫煙、飲酒、体格指数、中性脂肪、総コレステロール、収縮期血圧、降圧剤服用の有無、糖尿病の有無を調整した脳出血の多変量調整ハザード比(95%信頼区間)は、朝食からのエネルギー高摂取群は低摂取群に比べて、男性では0.38(0.15-0.99)、女性では1.36(0.36-5.10)であった。主栄養素に関して、年齢、地域、朝食以外からのエネルギー摂取量および朝食からの他の栄養素摂取量、喫煙、飲酒を調整した脳出血の多変量調整ハザード比(95%信頼区間)は、高摂取群は低摂取群に比べて、男性において、飽和脂肪酸が0.22(0.06-0.77)、一価不飽和脂肪酸が0.21(0.05-0.86)であった。	
〔総括(Conclusion)〕 朝食からの高エネルギー摂取、特に飽和脂肪酸と一価不飽和脂肪酸の摂取は、男性において脳出血の発症リスクを抑制する可能性がある。	